岩手県立生涯学習推進センター

研修実施報告 Web 版

実 施 日：令和２年９月３日（木）
実施場所：岩手県立生涯学習推進センター
受講者数：41 名　市町村参加率：35.4%
（12／33 市町村）

放課後子ども総合プラン指導者合同研修会②

職　員　研　修
有志指導者研修
要　請　研　修

この研修会は、放課後児童クラブ・放課後子ども教室などの担当者が子どもの活動に関わるリスクマネジメントについて学ぶことを目的として実施しました。各市町村の放課後児童支援員、コーディネーター、教育委員会担当者等、41 名が受講しました。

講義・演習「安全対策・緊急時の対応」

盛岡大学短期大学部幼児教育科　教授　石 川 正 子　氏

児童が過ごす環境は「健康と安全が守られなければならない。」

石 川 正 子　氏

子供の活動に関わるリスクマネジメントおよび事故発生後の対応のついて具体例をふまえてお話しいただきました。

講義の中で、安全対策は潜在的な危険を少なくする管理と子どもへの安全教育を行う事、「人はミスを侵してしまう存在」という事を前提に取り組みを行うことが必要であるとお話しいただき、「300 件のヒヤリ・ハットの先に１件の重大な事故」というハインリッヒの法則が紹介されました。

演習に取り組む参加者

午後の演習では、エピペン（アドレナリン自己注射薬）の使い方や、受講者の現場で起きたヒヤリハットを書き出す、ＳＨＥＬＬモデルを使用して書き出すといった、受講者が現在実際に現場で体験していることを具体化する演習が行われました。

練習用エピペン

研修会参加者からは、「SHELL モデルで書いてみるとわかることがあってよかった」「ヒヤリハット報告書を記録し、職員間での共有をしていかなければならないと思った」「子どもの安全のためにどんなことを想定していけばよいか、イメージが明確になった」などの声が寄せられました。

本研修会定員 36 名のところ、定員を大きく上回る応募をいただき、子供のけがや病気、事故への対応に大きな関心があることを感じました。

《受講者の声》

- 安全対策は日頃の振り返り、対策によって向上するかもしれないが 100%ということはないので、だからこその情報共有が大切だと改めて感じた。
- いままでやってみる機会がなかったヒヤリ・ハット報告書や SHELL モデル等実際にやってみて難しさが分かった。
- 日々子どもたちはいろいろなことをするので支援員同士コミュニケーションを大切にし、対応しなければいけないと再確認できた

《受講者の評価》

A（有意義）	７６．９％
B（どちらかといえば有意義）	２３．１％
C（どちらかといえば有意義でない）	０．０％
D（有意義でない）	０．０％

《担当者（高橋）から》

演習を通して、皆さんが普段勤務されている現場においての具体的なイメージを持つことができたのではないかと思います。